

「英語の『書く』『話す』試験中止を 日本学術会議が大学入学共通テストで提言」

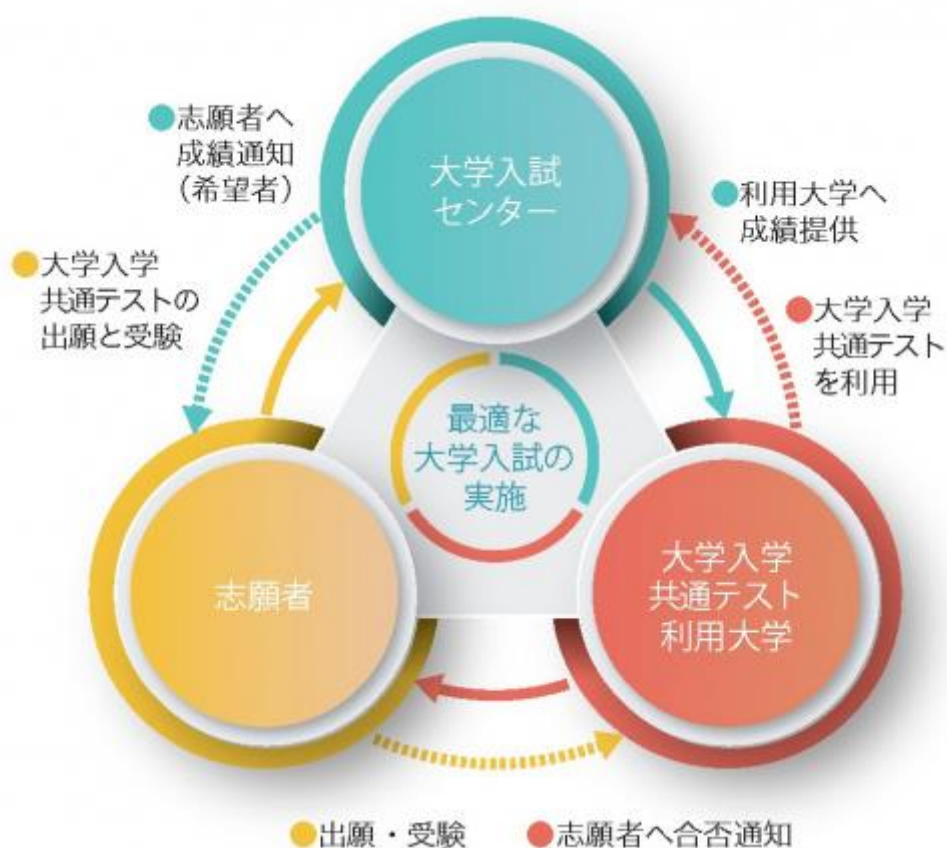
今年度から始まる大学入学共通テストに導入予定だったものの反対意見が多く実施が見送られた英語の「書く」「話す」能力を測る試験について、日本学術会議の言語・文学委員会文化の邂逅と言語分科会は 18 日、「大学入学共通テストの対象からはずし、各大学が必要に応じて実施すべきだ」とする提言をまとめ公表した。文部科学省は、2024 年度の大学入学共通テストからの実施延期を明らかにしたものの、導入の方針自体は変えていない。省内に設置した「大学入試のあり方に関する検討会議」（座長:三島良直日本医療研究開発機構理事長・前東京工業大学学長）が、どのような形で実施するか年内の結論を目標に検討を進めている。検討会議の議論に提言が影響を及ぼすかどうかは不明だ。



大学入学共通テストは、1990 年から続いていた大学入試センター試験に代わり、2021 年度の大学入学者選抜から実施が決まっている。大学入試センター試験同様、大学入学志

願者の高校段階の基礎的学習の達成度を判定するのが主目的。大学入試センター試験結果同様、すべての国公立大学が大学独自の入学者選抜試験結果と併せて合格判定に活用することを予定しているほか、私立大学の9割もいろいろな形で入学者選抜に活用すると見込まれている。

大学入学共通テストの仕組み・運営



(大学入試センターホームページから)

英語の4技能重視方針は変わらず

英語に民間試験を活用することは、国語・数学に記述問題が導入されるのと合わせて、大学入学共通テストの目玉とされていた。文部科学省が2017年7月に公表した「大学入学共通テスト実施方針」は、思考力・判断力・表現力を中心に評価を行うという目的などとともに、英語の民間試験活用法についても具体的に示している。強調されているのが、英語教育の抜本改革を目指す新しい高校学習指導要領に沿い、大学入学者選抜でも「読む」「聞く」「話す」「書く」の4技能を適切に評価する重要性だ。具体的な評価法として「現に民間事業者などにより広く実施され、一定の評価が定着している資格・検定試験を活用する」とされたことが、大きな反響を呼んだ。

「大学入試センターは高校3年の4月～12月の間の2回までの（民間の資格・検定）試験結果を各大学に送付することとする」。このように明記されていることから、毎年1月に全国の試験場で一斉に実施されてきた大学入試センター試験には全くなかった試験形態であることがわかる。新たに始まる大学入学共通テストの中でも、他の試験科目とは全く性格が異なる実施法となるのは変わらない。民間の資格・検定試験実施団体に作業を丸投げする懸念を想定したと思われるが、次のような記述が「大学入学共通テスト実施方針」の中にある。「資格・検定試験のうち、試験内容・実施体制などが入学者選抜に活用する上で必要な水準と要件を満たしているかは、大学入試センターが認定する。認定に当たり、各資格・検定試験実施団体に対し、共通テスト受検者の認定試験検定料の負担軽減方策や障害のある受検者のための環境整備策を講じることなどを求める」

民間の検定試験実施団体に懸念の声

しかし、大学入学共通テストに民間の英語試験を組み込むことに対する反響は大きかった。全国高等学校長協会は昨年9月、萩生田光一文部科学相あての要望書で「生徒が希望する時期や場所で英語民間検定試験を受けられる見通しが依然として立っていない」など、民間の資格・検定試験実施団体に試験を任せることに強い懸念を表明した。

日本私立中学高等学校連合会も同時期に同様の要望書を萩生田文部科学相あてに出している。その中で特定の団体を名指しして「自己の収益を最優先とし、英語4技能試験の実施を利用して事業の拡大を図ろうとするもの」と厳しく批判している記述が目立つ。民間試験実施団体に対するこうした懸念の高まりの中で、萩生田文部科学相は2019年11月、2020年度の大学入学共通テストの枠組みに英語の民間試験を取り入れることを断念し2024年度まで延期する決定を発表した。



英語4技能試験の延期を発表する萩生田光一文部科学相（2019年11月1日）＝文部科

学省動画チャンネルから

一方、日本私立中学高等学校連合会は、萩生田文部科学相あての要望書の中で「書く」「話す」能力を加えた英語4技能評価試験自体は予定通り実施すべきだ、と強く求めている。もし、中断・延期となれば、既に準備を進めている高校生が方向転換を余儀なくされ、新たな負担を強いることになる、という理由からだ。全国高等学校長協会もまた、4技能を積極的に使えるようにするため高校の英語教育を充実させることと、その成果を大学入試で測ることについては理解を示し、否定していない。

高校英語教育に悪影響指摘

今回、日本学術会議言語・文学委員会文化の邂逅と言語分科会が公表した提言で目を引くのは、「書く」「話す」能力を大学入学共通テストで測ること自体に強く反対している箇所だ。「民間試験を共通テストの枠組みで活用することは、本来の『バランスの良い英語力をつける』という目的を離れて、高校教育における英語教育を『民間試験対策』に変貌させてしまう恐れがある」と言い切っている。外国語教育は、聞いたり読んだりして理解する能力をしっかりと身に付けてからでないと、話したり書いたりすることによって伝える能力を伸ばしていくことは不可能、という考え方が根底にある。

「4技能を別々に計測して均等な成績をとることが重要であるという誤った考えに基づいて教育が行われれば、『書く』『話す』力を中途半端に引き上げる代償として『読む』『聞く』力が現状以上に低くなる可能性がある。これは将来的にバランスのとれた英語力を持つ可能性の芽を摘むことになる。そもそも、大学入試改革によって高校教育に影響を与えるという発想には無理があり、バランスの良い英語力の育成を目指すのであれば、何よりも高校教育の教育環境の改善および教育内容の総合的な改革と、それを受けた大学における英語教育強化の方が優先されるべき課題だ」とも、断じている。

民間団体の英語試験を活用することに対しては、「民間試験が高校学習指導要領に基づいた教育の成果を計測するために設計されたものではない」という基本的な問題点も提言は指摘している。それぞれ異なる目的を持っている民間試験を大学入学共通テストに導入することによって、高校の英語の授業で基礎的な事項の習得がおろそかにされ、民間試験の受験対策に重点が置かれる恐れがある、と疑問を提示した。さらに民間試験の受験回数が2回までとされていることに対しても、「それ以前に『練習』で何度も受けることのできる経済的・地理的に恵まれた環境にある受験生が有利になる」と批判している。

「どのような資格をもった人がどのような研修を行った上で出題・採点にあたるのかは、民間事業者任せになっている」。こうした民間試験の問題点も列挙したうえで、『書く』『話

す』力を問う問題は、各大学の判断で必要に応じて二次試験で課す形にすることが望ましい」としている。その際、民間試験を活用するかどうかは各大学の判断に委ねることを提言している。

文部科学省検討会議は年内に結論目標

文部科学省に設置された「大学入試のあり方に関する検討会議」は、1月15日以降これまで13回に及ぶ会議を開催している。委員は教育学が専門の大学教授を中心に国立大学協会、日本私立大学協会、日本私立大学連盟、公立大学協会、全国高等学校長協会、日本私立中学高等学校連合会、全国高等学校PTA連合会という大学入試に関連の深い団体の代表者からなる。提言をまとめた日本学術会議言語・文学委員会文化の邂逅と言語分科会のメンバーは入っていない。

提言は、「大学入試のあり方に関する検討会議」に対し、「高校・大学の英語教育にかかわる当事者の意見を反映させて検討を行う」と、「大学入学共通テストの前に実施されていた大学入試センター試験の評価を行い、それを踏まえて大学入学共通テストの英語試験の継続実施を検討する」ことを求めた。

文部科学省の2018年度学校基本調査によると、日本の高校卒業者は約106万人。大学入学志願者は74万人で、このうち大学入試センター試験の志願者は現役47万人、既卒者10万人（実際の受験者は55万人）となっている。今年1月18、19日に行われた最後の大学入試センター試験の志願者は55万7,000人で、全国706大学のうちすべての国公立大学と9割の私立大学の入学志願者が試験に参加した。国公立大学の一般入試では、大学入試センター試験を一次試験にし、二次試験として各大学が個別試験を行っている。私立大学については大学入試センター試験結果だけで入学者を選抜している大学もあれば、逆に各大学が実施する個別学力検査だけの大学、さらには両方の試験を課す大学などさまざま。大学入試センター試験に代わる最初の大学入学共通テストは来年1月に予定されている。

日文 小岩井忠道（JST 客観日本編集部）

関連サイト

萩生田光一文部科学省メッセージ（英語民間試験について）「受験生をはじめとした高校生、保護者の皆様へ」（2019年11月）

https://www.mext.go.jp/content/1422381_01.pdf

文部科学省「大学入学共通テスト実施方針」（2017年7月）

https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2017/10/24/1397731_001.pdf

全国高等学校長協会、「2020年4月からの大学入試英語成績提供システムを活用した英語4技能検定の延期及び制度の見直しを求める要望書」(2019年9月)

<http://www.zen-koh-choh.jp/iken/2019/20190910.pdf>

日本私立中学高等学校連合会、「大学入学共通テスト」における英語4技能試験について(要望)」(2019年9月)

<https://www.chukoren.jp/activities/pdf/demand201909-01.pdf>

文部科学省「大学入試のあり方に関する検討会議について」(2019年12月)

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/103/mext_00317.html